



身を護る、家族を守る、地域を守るために。

①：避難所受付で住所や世帯全員の名前を記入する参加者。／②：ボランティアによる炊き出し訓練。早朝から多くの方にご協力をいただいた。／③：あいさつで「共助」の大切さを訴える片庭市長。／④：消防職員の説明を聞きながら、布を使った応急措置を体験する参加者。／⑤：体育館の外には、火災発生時の煙を体験できるテントも設営された。



シエイクアウト訓練

訓練の最後には、全員参加の「シエイクアウト訓練」も行った。「シエイクアウト訓練」とは、アメリカで考案された、地震災害のための訓練方法だ。「Drop(姿勢を低く!)、Cover(体・頭を守って!)、Hold On(揺れが収まるまでじっとして!)」の3つの基本動作を、訓練に参加する全員が同時に行うことが特徴だ。

今回の訓練でも、会場のアナウンスに合わせて、参加者が一斉に姿勢を低くし、頭部などを守る動作を行った。

ボランティアも連携し運営にあたる

今回の訓練を実施するにあたり、たくさんの方のボランティアの皆さんが運営に協力した。避難所受付では、避難者の名簿記入をサポート。体育館入口脇では、市ボランティア連絡協議会によ



市区長会会長 松本 譲二さん

る炊き出し訓練が行われ、訓練参加者にカレーが振る舞われた。2人の娘さんとともに参加した寺田さんは「実際の災害が発生する前に、子どもたちと一緒に避難所を擬似的に体験できたことがとてもよかった。防災への意識が高まった」と笑顔で話してくれた。

「地域のつながりの大切さ」これを機に考えて

市区長会の谷井田地区会長で、市の区長会会長でもある松本譲二さん。区長に就任してから、地区内を限なく歩いたという。そこで多く耳にしたのが、地域の皆さんの災害に対する不安の声。これを市に相談したことから、今回の防災訓練が実現した。

松本さんは「想定よりも多くの方が参加してくれた。防災への意識が高いことの表れ。不安を抱えている方も、避難所にくれば安心だよ、ということが伝わったかなと思う」と評価する。

その上で「いざ災害が起こった場合、自治体だけでは限界がある。この訓練をスタートとして、日頃から近所で声を掛け合い、地域住民同士で助け合う「共助」の大切さを考えてもらえたら」と期待を込める。